## 5　母子保健施策における保健所の重点事項

（１）疾病や障害があっても健やかに育つための施策の推進
（２）健全な子どもを育てるための施策の推進
（３）母子保健を取り巻く様々な分野の情報収集・分析・施策の検討を行う体制づくり

## 6　保健所母子保健事業の具体的方針

保健所は、養育医療、育成医療、小児慢性特定疾患の窓口であり未熟児の訪問指導を行っています。対象者の中には、療育指導や、在宅医療の必要なケースがありますが益田郡には、高度な医療機関が少なくまた、重度心身障害児、肢体不自由児の施設はなく、これらは、飛騨地域にもありません。岐阜市近郊に偏っているため、肢体不自由児施設や、難聴児通園施設へは２時間以上もかけて通園しているケースがあるなど、子どもたちが生まれ育った地域で療育できない現状です。

今後、保健所の役割として、親の負担を軽減するため様々な人的資源の組織化、諸制度の活用、医療機関、保育所との連携、調整、親への育児を支援する体制整備がことが大変重要であると思われます。

益田保健所においては、療育相談事業、在宅療養児セミナー、訪問指導等を実施し、障害児のＱＯＬを高めていくための取り組を進めていきます。

### （１）疾病や障害があっても健やかに育つための施策の推進

ア　未熟児・低体重児への訪問の充実

未熟児・低体重児は、正常の新生児に比べ生理的に未熟であり、成長に伴って心身の障害が発生しやすい等のため、母親の育児不安が強く、個別にきめ細かな対応が必要と考えらます。今後は、医療機関、町村との連携を密にして、未熟児・低体重児の母親、家族の不安を軽減するような支援を行いないます。

イ　身体障害や慢性疾患を有する子どもの療育や健康管理、在宅看護、介護に関する相談

（ア）療育実態調査

障害乳幼児を抱える家族がどのような悩みや、ニーズを持っているか明らかにし問題提起をしていくための実態調査を実施します。

（イ）療育相談事業

町村の実施する母子保健事業や在宅療養児セミナーやアトピー性疾患相談事業、育成医療給付事業等と連動させながら、医師等の専門家を確保し、事業の効果的な実施を図ります。

・個別相談及び学習会を開催するとともに、仲間づくりを行います。

（ウ）在宅療養児セミナー

小児慢性特定疾患治療中及び親を対象に、学習会を開催し、病気の治療に取り組んでいけるよう支援します。

・療育相談事業との連動を図りながら、保護者同士の情報交換ができる場づくりを行います。

（エ）子どもの在宅医療に関する体制整備。

・親の看護、介護を支える人的ネットワークづくり
・親への精神的サポート
・訪問リハビリなど療育の推進
・患児のＱＬＯを高めるためのシステムづくり
・医療、福祉との連携

（オ）アトピー性疾患相談事業

アトピー性疾患で悩んでいる乳幼児及びその親を対象に相談、指導を行い、親等の育児不安の解消を図ります。

・医師等専門家による相談、講話を行います。
・保護者同士の情報交換を行います。
・療育相談事業との連動を図ります。

（カ）訪問指導事業

小児慢性特定疾患、育成医療、養育医療の対象児及び親への支援として、町村関係者や医療機関、学校保健関係者と連携をとりながら訪問による支援を行います。

（２）健全な子どもを育てるための施策づくり

ア　思春期の性教育やこころの発達に関する教育、相談

（ア）児童思春期精神保健相談事業

不登校、摂食障害など、子どもたちに多様な現象がおきています。そこで成長・発達段階に生じる様々な悩みについて、本人や家族が相談できる場を月一回確保します。

（イ）フリースペース「メ・ザミ」の開催

児童思春期相談事業に来所した子どもたちが一息つけ、自分の気持ちが出せ、心の安定と成長が得られるための場を週一回確保します。

（ウ）養護教諭との連絡会議の開催

学校保健との連携も重要であるため、養護教諭との連絡会議を開催します。

（エ）不登校を考える会及び親の会への協力

イ　児童虐待の防止事業

児童虐待の防止のためには、各町村における母子を取り巻く様々な事業の中で親を支援していくことや、児童虐待の有無をキャッチすることが重要です。

まず、児童虐待についての学習会を実施することにより、管内の関係者が母親等への育児支援について学んだり児童虐待を見る目を養うことが必要です。

また、児童虐待の早期発見及び発見後の対策について、児童相談所や町村、医療機関等と連携をとれる体制づくりをめざします。

ウ　小児期からの成人病予防活動

（ア）小児肥満予防教室

肥満または、肥満傾向の小児並びに栄養、発育に問題がある小児に対して、小児期に適切な生活習慣の基礎を確立するために年３回教室を開催し適切な指導することにより、成人病に移行しやすいといわれる小児肥満を予防・解消し将来の成人病の発生を予防します。

（イ）禁煙教室

喫煙は、ガン、循環器疾患の成人病の危険因子です。喫煙者に限らず周囲の非喫煙者の健康にも影響を及ぼしています。このためには、「たばこ」が健康に与える害について若年層から禁煙の認識を深める必要があり、若年者対象の禁煙教室を開催します。

・学校保健との連携を図る
　若年者の喫煙が健康に及ぼす害について
　受動喫煙の影響について

エ　先天性代謝異常等検査及び神経芽細胞腫検査事業

管内医師会、医療機関及び町村の協力を得ながら、事業の円滑な実施と受診率の向上をめざします。

また、検査の結果、フォローが必要なケースについては、関係機関との連携により訪問、相談等で支援していきます。

オ　母子保健にかかわる研修会の企画

母子保健担当者に関する研修を適宜開催します。

・児童虐待に関する研修
・在宅専門職の研修

（３）母子保健をとりまく様々な情報の収集及び分析、町村指導

ア　人口動態統計及び母子保健に関する各種健康指標から、母子保健に関する健康問題の把握に努め、必要な施策の検討を行います。

（ア）健康指標
（イ）各疾病の発生動向
（ウ）管内の母子保健事業の実態把握及び分析

イ　町村、医療機関、学校保健、福祉との連携により必要な調査等の検討を行います。

（ア）地域における母子保健の問題点の把握
（イ）疾病や障害を持つ子供の保健、医療、福祉ニーズやＱＯＬに関する調査、研究。

ウ　町村に対する支援

（ア）各町村の母子保健計画の進捗状況の把握に努め、母子保健指標等の統計資料とともに、各町村の母子保健サービスの在り方について検討し、助言できるようにしていきます。

（イ）研修会の実施

管内の母子保健サービスの充実のための必要な研修を企画、実施します。

7　広域的母子保健システムの確立

（1）母子保健推進協議会の開催

市町村の母子保健事業を支援するとともに、広域的な母子保健システムを推進するため、管内町村、医師会、専門医療機関、児童相談所など母子保健、医療、福祉に関する機関、団体から構成される母子保健推進会議を開催し、広域的な母子保健、医療、福祉施策を推進するための体制を整備するとともに、母子保健施策の効果的な推進を図ります。

（2）子ども発達支援システムの確立をめざす

乳幼児健診、訪問指導による育児支援に取り組んできていますが発達障害を疑われる子どもとその家族に対する相談と必要な早期療育サービスの提供等への対応は十分でありません。特に、管内には様々な発達障害を疑われた子どもに関する相談、訓練を行う専門機関がないため、必要な子どもに対して十分な療育サービスを提供することができていません。対象者の利便性を考え、県レベルでの体制の整備を図ります。

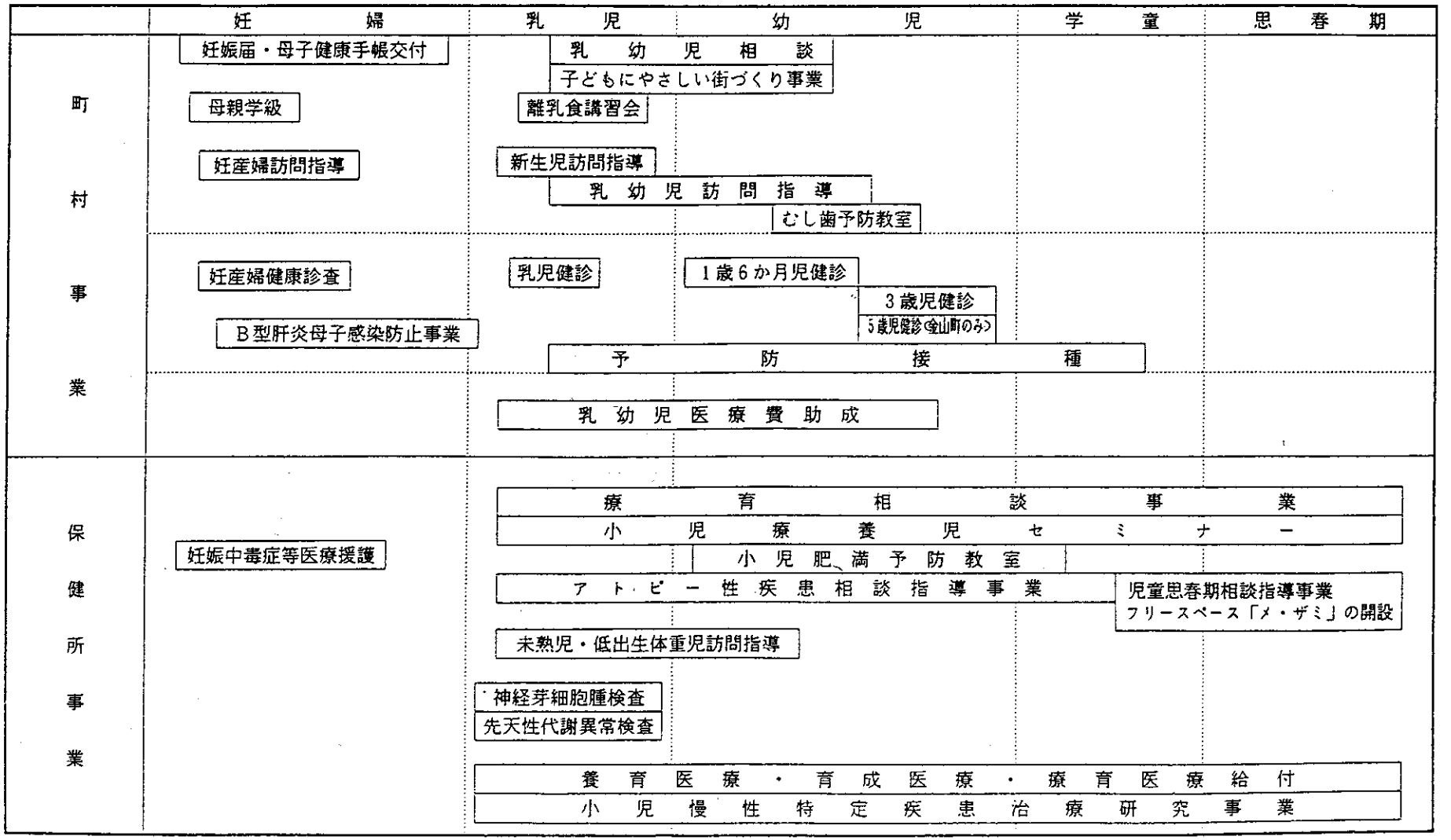
（3）未熟児地域ケアシステムの確立をめざす

未熟児については、望ましい発育、発達を促し、保護者の育児不安に対応するため、退院前から保健婦等が関わる体制整備し、医療機関の協力を得て、退院前後のケアに結びつける母子保健の地域ケアシステムの構築を進めます。

母子保健計画

各町村とともに、安心して子供を産み育てることができる地域づくりをめざしています。

1　益田管内母子保健施策の推進体制



別紙Ⅰ

平成９年４月１０日

岐阜県教育委員会教育長　殿

教育委員会名　益田郡教育研究所
所　在　地　萩原町萩原1166-8
代表者氏名　所長　桂川　好勝

平成９年度　ほほえみ登校推進事業実施計画書

1　事業の実施期間　　指定を受けた日から平成１０年３月３１日までの間

2　「適応指導教室」の開設場所

| 開設場所 | 所在地・電話番号 |
|---|---|
| 萩原町星雲会館の一部 | 益田郡萩原町萩原１１６６－８　０５７６－５２－２９００ |
| 下呂町福祉会館の一部 | 益田郡下呂町野尻１１８７－２　０５７６－２６－２３４４ |
| 金山町教育センターの一部 | 益田郡金山町金山２２９４　０５７６－３２－２４４９ |

3　(1)　「適応指導教室」の対象となる児童生徒（見込み）

| 小学生 | 中学生 | 計 |
|---|---|---|
| １１名 | ８名 | １９名 |

(2)　「訪問指導」の対象となる児童生徒（見込み）

| 小学生 | 中学生 | 計 |
|---|---|---|
| ０名 | ０名 | ０名 |

(3)　適応指導教室における「家庭啓発事業」について

| 実施予定回数 | 参加者（延べ） |
|---|---|
| ２４回 | １４４人 |

4　適応指導教室の指導者内訳（医師、臨床心理士、心理判定員、指導員、相談員等）

| 医　師 | 臨床心理士 | 心理判定員 | 教育相談員 | 指　導　員 | ボランティア | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1　名 | 1　名 | 1　名 | 6　名 | 1　名 | 2　名 | 12名 |

5　適応指導教室の主な指導者

| 氏　名 | 勤　務　先　・　職　名 | 勤務先所在地　・　電話番号 |
|---|---|---|
| 1 笠原　憲司 | 精神健康福祉センター　医務課長心得 | 岐阜市下奈良2-2-1　058-273-1111 |
| 2 坪井あかね | 下呂温泉病院　臨床心理士 | 下呂町幸田1162　0576-25-2820 |
| 3 小川　智子 | 谷敷病院　心理判定員 | 萩原町西上田1960　0576-25-5758 |
| 4 奥田　数巳 | 萩原町教育委員会　教育相談員 | 萩原町萩原1166-8　0576-52-2900 |
| 5 曽我　秀夫 | 下呂町教育委員会　教育相談員 | 下呂町森960　0576-24-2222 |
| 6 二村　清 | 金山町教育委員会　教育相談員 | 金山町金山2294　0576-32-2449 |
| 7 北条多美江 | 小坂町教育委員会　教育相談員 | 小坂町大字大島17　0576-62-2425 |
| 8 中川　銹一 | 馬瀬村教育委員会　教育相談員 | 馬瀬村大字名丸　0576-47-2111 |
| 9 桂川　好勝 | 益田郡教育研究所　所　長 | 萩原町萩原1166-8　0576-52-2900 |
| 10 齊藤　耀善 | 益田郡教育研究所　教育相談員 | 萩原町萩原1166-8　0576-52-2900 |

6　指導日数、指導時間

(1)　通所指導の場合

（指導日数）

| | |
|---|---|
| 週当たり | 5　日 |
| 年　間 | 200　日 |

（指導時間）

| | |
|---|---|
| 1日当たり | 3．5　時間 |
| 年　間 | 700　時間 |

ただし、毎週木曜日、午前中は、カウンセラー（病院〈精神科〉勤務、心理士）による、保護者、学校関係者対象の教育相談を位置づける。

(2)　訪問指導の場合

平成９年度は、適応指導教室の開設を重点にするため、訪問指導は、位置付けない。

7　適応指導推進協力者会議

| 氏　名 | 勤務先・職名 | | 勤務先所在地　・　電話番号 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 笠原　憲司 | 精神健康福祉センター | 医務課長心得 | 岐阜市下奈良2-2-1 | 058-273-1111 |
| 2 坪井あかね | 下呂温泉病院 | 臨床心理士 | 下呂町幸田1162 | 0576-25-2820 |
| 3 小川　智子 | 谷敷病院 | 心理判定員 | 萩原町西上田1960 | 0576-25-5758 |
| 4 野村　顕 | 下呂町役場 | 保健衛生課長 | 下呂町森960 | 0576-24-2222 |
| 5 大前　和雄 | 萩原町役場 | 健康福祉課長 | 萩原町萩原1856 | 0576-52-2000 |
| 6 細江　重金 | 下呂町社会福祉協議会 | 事務局長 | 下呂町野尻1187-2 | 0576-26-2344 |
| 7 岡崎　健 | 益田不登校を考える親の会 | 代表 | | |
| 8 中川　澄子 | 益田不登校を考える親の会 | 代表 | | |
| 9 田上　章 | 飛騨児童相談所 | 課長補佐兼判定保護係長 | 高山市千島町35-2 | 0577-32-0594 |
| 10 大前　一広 | 益田保健所 | 保健指導係長 | 萩原町羽根2605-1 | 0576-52-3111 |
| 11 横谷　克美 | 益田保健所 | 保健婦 | 萩原町羽根2605-1 | 0576-52-3111 |
| 12 大坪　英夫 | 飛騨教育事務所 | 登校拒否対策指導主事 | 高山市上岡本町7 | 0577-33-1111 |
| 13 熊崎　正壽 | 萩原町立萩原小学校 | 校長 | 萩原町萩原 | 0576-52-1600 |
| 14 齊藤　耀善 | 下呂町立下呂小学校 | 校長 | 下呂町森285 | 0576-25-2459 |
| 15 大西　英男 | 萩原町立南中学校 | 校長 | 萩原町萩原579 | 0576-52-1109 |
| 16 田口　正邦 | 下呂町立下呂中学校 | 校長 | 下呂町森455-1 | 0576-25-2732 |
| 17 田口　恒司 | 萩原町教育委員会 | 教育長 | 萩原町萩原1166-8 | 0576-52-2900 |
| 18 橋本　嘉行 | 小坂町教育委員会 | 教育長 | 小坂町大字小坂町 | 0576-62-3111 |
| 19 田口　利弘 | 下呂町教育委員会 | 教育長 | 下呂町森960 | 0576-24-2222 |
| 20 清水　治 | 金山町教育委員会 | 教育長 | 金山町大船渡600-8 | 0576-32-2201 |
| 21 赤梅　昭三 | 馬瀬村教育委員会 | 教育長 | 馬瀬村大字名丸 | 0576-47-2111 |
| 22 二村　茂樹 | 益田郡教育振興会 | 事務局 | 萩原町萩原1166-8 | 0576-52-2900 |
| 23 桂川　好勝 | 益田郡教育研究所 | 所長 | 萩原町萩原1166-8 | 0576-52-2900 |
| 24 齊藤　耀善 | 益田郡教育研究所 | 教育相談員 | 萩原町萩原1166-8 | 0576-52-2900 |

9　担当者名（職氏名、電話番号）　益田郡教育研究所教育相談員　齊藤　耀善　0576-52-2900

所要経費

| 調査研究の経費項目 | 金　額 | 積　算　内　容 |
|---|---|---|
| (1)<br>諸謝金 | 1，120，000 | カウンセラー謝金　8,000円×　50日＝40万円<br>指導員謝金　6万円×12ヶ月＝72万円 |
| (2)<br>旅　費 | 173，360 | ほほえみ登校推進事業連絡会議出席旅費8，280円<br>地区教育相談員等研修会出席旅費<br>6回×5，180円＝31，080円<br>ボランティア旅費　1,000円×2人×50回＝10万円<br>野外学習の引率者及び児童生徒の旅費（2回分）＝<br>34,000円 |
| (3)<br>会議費 | 47，000 | 適応指導推進協力者会議食料費<br>500円×3回×24人＝34，000円<br>地区教育相談員等研修会研修負担金　13，000円 |
| (5)<br>消耗品費 | 44，640 | 事務用品<br>フリースペース教材 |
| (7)<br>その他 | 115，000 | ・ボランティア保険料 5,000円<br>・プール使用料200円×10回×10人＝2万円<br>・野外学習に関わる経費（キャンプ場使用料、キャンプに必要な材料費等）・・2回分で5万円<br>・通信費4万円 |
| 合　計 | 1，500，000 | |

# 「親の会」通信 NO.5

寒風の中、ヒヨドリが、庭木に残った実を求めてせわしなく動き回っています。暮れの穏やかさとは対照的な年明けからの冷え込みに、いまだ戸惑う今日この頃です。

遅ればせながら、明けましておめでとうございます。子どもたち、そして、子どもたちを取りまく環境に、明るい話題がひとつでも多く加わりますよう願っております。

さて、今回は、12月の親の会例会やフリースペース時の集まりで話題にのぼった内容や、新聞・本などの情報の中から幾つか紹介させてもらいます。

12月の親の会例会にて
12/20(日) 7名参加

▶学校からは、たまに用事のある時だけ電話連絡があります。同級生のお母さんたちは「つめたいね」と言うのですが、どうなんでしょうね。

▶うちの場合、毎日学校から電話がかかってきた時はもうえらくて…。そう日に日に変化があるわけでもないのでと断ったら、ずっと連絡もなくて…。そうなると何だか見捨てられたようで不安になったりしました。

▶私は、学校から何も言ってこられない状態が楽で、ありがたかったですよ。連絡は集金の時くらいで。

▶子供がどう思うか、どう感じるかということではないでしょうか。例えば、行事などの連絡があると、ついつい親は子供に「どうする?」と言ってしまいがちです。親の期待が見え隠れするのを、子供は敏感に感じ取りますね。

▷益田のフリースペースには、しばらく行っていないのですが、高山の相談施設に週1回くらい通っています。汽車で1人で出かけることもあります。メザミより少人数ですが、卓球などをして楽しんでくるようです。

▶担任の先生が家に来られても、子供には抵抗があるようですが、相談員の先生には上にあがってもらって、時には一緒に遊んだりしています。

▷「学校を休むのはいいが、毎朝きちんと起こして家族と同じ時間に寝るようにし、家族と同じサイクルで生活できるように」というアドバイスをもらいました。子供本人に聞いて、毎朝6時半に起こしていますが……。

▷家でも緊張して"いい子"していては、十分休めないのではないでしょうか。たとえ昼夜逆転しても、ゆっくり休むことが必要な時期があると思います。

▶釣りが好きで、父親が時々連れていくのですが、そんな時は目覚まし時計なしでも、早朝に起きて出かけていきます。学校の先生方にも、保健室や相談室などへ通っている子供たちという

しょに、何回か連れていってもらっています。釣りの時には心を開くようなので、ありがたいなあと思っています。

▷子供が欲しがっているものを、父親は割合すぐ買ってやっているようで、誕生日とかクリスマスとかでもないのにと気になるのですが、どうなんでしょうか。

▷子供たちを見ていると、その子供なりの基準をもつようになるし、だんだん買いたいものを整理して言ってくるようになりました。

▷子供は何でもかんでも欲しいと言うわけではないし、自分が熱中できる興味のあるものを持てるっていうことは、いいことではないでしょうか。これというものもなくて、子供が悶々として家に居るというのも、見ていて本当につらいものです。

▷学校に行っていれば、したいことであれ、したくないことであれ、とにかく1日のおおかたの時間が過ぎていきますが、家でいろんな思いに苦しみながら、長い長い1日を過ごすのは、またつらいことでしょう。関心をかたむけてやれるものが出てきたら、できる限り家族でサポートしていきたいし、それによって、子供がいやされたり、元気を取り戻したりするきっかけになることも多いと思います。

▶ドラマを見て励まされることがありました。世の中では、進学も就職もしていないと落ちこぼれのように言うことが多いのですが、そんな若者が、いろいろ考え、いろいろ行動し、家族を元気づけ勇気を与えたりしており、いろんな生き方があっていいんだと痛感させられました。

▷子供が不登校になって数ヶ月、やっと少し落ち着いてきましたが、親戚の人にいろいろ言われると不安になるし、仕事の行き帰りに同級生の子供を見たりするとうらやましく思えたり、他の親さんの目も気になったりします。

▷私も、うちの子供はこれでいいのだと思いつつも、登下校する子供たちを見ると、後に「……」がついたりします。

▷もう何年も前になりますが、ため息をこらえながら、集団登校する子供たちを職場の窓から眺めたこともあります。ただ、その視野の半分では、どうして子供たちは朝からこんなに元気がないんだろうと、余裕のない表情が気になっていました。

▶通信制高校の見学に子供が行って来ました。授業やレポートなどを見せてもらい、これなら自分にもやれるかもしれないという印象をもって帰って来ました。

▶やはり同様に見学に行ってきた子供の親さんから、話を聞いたのですが、やれるかどうか、続くかどうか、子供本人も親さんもとても不安に思っているということでした。3年目でやっと1回めの定期試験までたどりついた人や、何年も同じ学年をやっている人もいて、それぞれの事情の中で、それぞれのペースで勉強している様子を、子供から聞きます。

▷他の学校の先生が、子供の学校の先生に話をしてくださったら、「学校へ来させるばかりがいいとは限らんのやな」と言われるようになって、ありがたかったです。

▶学校では、勉強や大会の成績がよくて、挨拶が元気にできる子供は、先生

の印象が良いのですが、実際陰では他の子供をいじめたり、万引をしたりという子供もいて、歯がゆい思いもあります。

▷ 子供に言う「あんたのためなんやで」という言葉は、実は親自身のためであることが多いですね。

▷ 子供が不登校をテーマとするアンケートを書くときに言っていたのですが、「学校へ行っていない子供たちのそれぞれが、もし語り出せば、1人1冊の本ができるくらいの出来事や思いがあるのに、こんな小さな紙切れに書けというのがそもそも無理なんや」と。

## フリースペース時の集まりにて

◎ 進学のことを考えて、子供が友人と英語と数学の勉強を始めました。最初は教科書をさがすところからだったようで、どうなっていくかわかりませんが、1人でやっているよりは張り合いがあるようです。

○ 子供が学校に行ける日が多くなると、先生からの要求もきつくなって戸惑いよす。今の状態でやっと登校しているのに、それを支えている前提をいくつもはずすことは、子供のエネルギーをそぐことになりはしないかと……。

◎ 子供の対応に悩んでいた頃に聞いた話に、二通りありました。ある人が言われるには、「獅子が子離れをする時には子を谷に突き落とすといわれるように、子供を突き放した方がいいと思う。そうすれば、子供は自力で何とかすることを考えるだろう。」と。また別の人が言われるには、「私は子供を突き放すやり方はどうかと思う。なぜなら、そういうやり方は親と子のあいだになにものも生み出さない、築き上げられていかないから。」と。

○ 通信教育のレポートを、子供と一緒にやっていますが、解説を読んでもよくわからないところは、まあいいかと気楽にかまえています。先日、数学の図形の公式をやったら、実際にメジャーであちこち測って回り、「本当や。いったい誰がこんなことを発見したんやろう」と感激していました。いい勉強しているなあと思います。

◎ 学校でみんなが使っている算数ドリルや漢字ドリルとは少し違うドリルを、先生がさがしてきてくださり、子供もこれならやれるという感じで、どんどん自分で楽しんでやっています。

## フリースペース

12/17(木) 下呂
- スタッフ 2名
- ボランティアスタッフ 4名
- 子供 9名

持ち寄りで昼食をし、グループ対抗でゲームを楽しんだ年忘れ会でした。

12/24(木) 萩原
- スタッフ2名、ボランティアスタッフ1名
- 子供 9名。

ボードゲーム、TVゲーム、読書などして過ごしました。

1/7(木) 下呂
- スタッフ 3名、ボランティアスタッフ 4名
- 子供 10名

カードゲームやTVゲーム、新春らしくカルタとりや坑主めくりも楽しみました。

1/14(木) 萩原
- スタッフ 3名、ボランティアスタッフ 3名
- 子供 10名

ゲームを楽しんだり、いろんな話題のおしゃべりに熱中しました。

1/21(木)
- スタッフ 2名、ボランティアスタッフ 2名
- 子供 9名

ボーリングに出かけました。養護教諭の先生方が見学に来られました。

## 「高山 いじめと不登校を考える会」12/16 参加メモ (水)

◎ 校外教室へ楽しんで行っています。遊べるようになったし、友だちもできて、話ができるようになりました。30分でもいいから、何とか勉強もしてこれるといいなあと思っています。

○ 週3回ほどフリースペースに通い、土日は友人と遊んでいます。この頃、何年も前の出来事や中学校へは行きたいことなど、ポツリポツリと話すようになり じゃれついたりもするようになりました。

◎ 子供に寄り添うということは難しいものだなあと思います。体調の良い時は待つ姿勢でいられますが、そうでない時は自分本位になってしまいがちです。子供の気持ちを見失わないようになくてはと思っています。

○ ラジオの教育相談の話を聞いていると、専門の医者が必要なケースもあるという話でした。

◎ 土曜日の放課後などに、先生が子供を誘ってくださり、いろんな話をしてもらっているようです。時々、フリースペースに行ってお茶を習ったり、家で過年度の勉強を始めたりと、元気に過ごしています。兄弟と一緒に牛乳配達も続けています。

○ 泣くということはその子の表現手段のひとつだし、泣くことでストレスを発散することもできますが、今から思うと、うちの子は割合表情を変えず、ずっと自分を抑えてきたのだろうと思います。校外教室やフリースペースに行けるかどうかは、それぞれの子供にとって時期というものがあるのではないでしょうか。

◎ 子供が不登校になって2ヶ月ほどです。学校からプリントが届いたり、同級生の子が来たりすると荒れますが、家で絵を描いたりワープロを打ったり、ゲームをやったりしており、少し落ち着いてきました。親としては思ってはいけないと思っても、学校へ行けない子はダメな子、弱い子とつい思ってしまいます。添い寝をして本を読んでやったりしていますが、一日中いっしょにいると、こちらもストレスがたまり嫌になってしまって……。子供に、冬休みが明けたら学校へ行こうなと言ったり、おまえのために家族みんなが困っていると言ってしまったりという状態です。子供の思い通りにさせておいていいものか、将来生活していけるのかが心配でたまらないし、親自身のストレスをどうしたらいいのか、本当に困惑しています。

『親たちが語る登校拒否』世織書房、89/4/7

「おおきな木通信」より(P215～231)から転載

### 見守る

「学校に行かないわが子をこのまま黙って見守っているだけでいいのでしょうか？」

「見守って待っているだけでいいのでしょうか？」

「何かしてあげることは出来ないのでしょうか？」

「何をしてあげたらいいのでしょうか…」

いただくたくさんのお手紙や電話の中に見たり聞いたりする言葉です。

言葉って難しいですね。言葉を意識したとたんに縛るものになる。私もかつて「見守る」という形で監視をしたり「待つ」という形で方向づけをしていたりしたっけ。

「何かしてあげなければ」という思いやりの中に「あなたは自分の足で歩んでいけないから」というメッセージが隠れていたり…。「見守る」も「待つ」も「何か出来ないか」も縛られているときはお互いにきついもの。次には大人が先ずそこらへんから解放されることが大切だという気がします。それには「自分自身を生きる」ことなんだろうなあ。

## 1月の親の会例会

1/31(日) P.M. 2:00～ 岡崎宅にて
(0576・52・1436)

親さんならどなたでも、気軽にご参加ください。

☆ 2月の例会の予定は 2/27(土)。
'99年度の親の会の運営について話し合いをもちますので、よろしくお願いします。

## フリースペースの予定

☆ 2/4(木)、2/18(木) 下呂町福祉会館2階 教養娯楽室

☆ 1/28(木)、2/25(木) 萩原町星雲会館1階 エイジレスルーム

P.M. 1:00～4:30

注意 2/11は祝日でお休みです。

〈相談日〉2/4(木)、2/18(木) 笠原医師
P.M. 1:00～4:00

〈スタッフと親の連絡会〉
2/4(木) P.M. 4:00～ 下呂町福祉会館2階
子どもさんがフリースペースのメンバーの親さんは、できるだけご参加ください。

## 出かけてみませんか

☆「あゆむ会」高山市山田町山ゆり福祉会館2階にて

2/10(水) P.M. 7:00～9:30〈会費、有料〉
不登校を中心として、青少年期の子どもや教育について悩み考える、親や教員などの集まりです。(カウンセラーのアドバイスあり)
後半は心理の学習会です。

☆「いじめと不登校を考える会」

2/24(水) P.M. 7:00～9:00〈参加費、無料〉
高山市総合福祉センター3階、研修室にて第19回例会。どなたでもご参加になれます。

☆「いじめと不登校を考える教育集会'99」
～おおらかに そして しなやかに～

2/13(土) 9:30～15:30 高山短大講堂 会議室
協力券 500円(学生無料)

主催「いじめと不登校を考える教育集会'99」実行委員会
(実行委員長、岐阜組飛騨支部長
事務局、いじめと不登校を考える会)
問い合わせ、大田さん(0577-32-2417)
藤沢さん(0577-34-7707)

第1部 9:30～
9:40～10:30
〈学校・地域からの報告〉
・小池静子さん(司書)
・増山雅美さん(心理士・スクールカウンセラー)
10:40～12:25
〈講演〉『学校的日常を見つめなおす』
講師、藤井誠二さん
(ノンフィクションライター)
第2部 13:30～15:30
〈学習交流会〉自由な意見交換の場

なお、実行委員会では、教育集会の協力者を募集しています。ポスター張り、チラシ、チケット配布、宣伝、当日の手伝いなど、できる方は、電話連絡を!

☆「教育を考える講演会」

1/31(日) P.M. 1:00～ 松阪労働金庫2階会議室
講師、斎藤次郎さん (松阪駅裏、徒歩10分)
問い合わせ、登校拒否を考える会松阪
「かたつむりの会」0598(29)3929

## こんな場所もあります。

『夕陽ヶ丘 フリースペース』
高山市山田町1230の13
児童養護施設、夕陽ヶ丘別館
0577(34)0499
「安心できる居場所」、「みんなで作っていくこと」が合いことば。
毎週 月～金曜日、AM.10:00～P.M.4:00
(祝祭日をのぞく)

# 「益田・不登校を考える会」とともに

岡崎　健

ぎふ精神保健
第32巻 第2号 別刷
1995年11月12日発行

岐阜県精神保健協会

<精神保健関係機関・地域組織の紹介>

# 「益田・不登校を考える会」とともに

益田・不登校を考える会
岡　崎　　健

## 1.「まさか、うちの子が・・・」

忘れもしない平成2年3月4日、当時小学校3年生だった我が家の1人娘が突然登校できなくなった。布団の上で洗面器を抱えたまま座りこんでいた。職業上、多少の知識があった「登校拒否」という言葉が頭をよぎったことをはっきり覚えている。

多くの不登校の子供をもつ親が言っているように、本当に「まさか、うちの子が」の言葉を何度も何度も心の中でつぶやいた。

それから5年6ケ月。不登校の子をもつ親としてさまざまなことを学び、考え、話し合い、人から教えられ、支えられ、時には子供から教えられながら今日まできた。

## 2.「妻の一言で吹っ切れて・・・」

我が家の娘が不登校になるまでに、私も妻も何人かの不登校の子供（生徒）に接した経験があった。しかし、正直なところその経験はほとんど役に立たなかった。それまでに接した生徒や親御さんに、ずいぶん無責任なこと、失礼なことをしたり言ったりで余計な苦しみや混乱をさせていたことが今となって解った。

我が家の娘の不登校が確実になると、親としての苦しみも本格化した。頭の中は血液が循環していないのではと思うような、胸の中には鉛の塊があるような、夜中に汗をビッショリかいて目が覚めるような毎日であった。娘に対しては、勉強なんてできなくていい、宿題もやらなくていい、学校にさえ行ってくれればと思っていた。

当時、共働きであった我が家は、娘を1人だけ家に置いておくことも、無理に登校させることもできず、また、娘は妻に「お母さん、きょう仕事休んで」の要求で私の何倍かの物理的・精神的負担が妻にかかることになった。

ある日イライラしている私に妻が「いま学校へ行くことがこの子にとって幸せなことなのか」と言った。家の中でも、職場でも私の何倍も苦しい立場のはずの妻の口からこの言葉が出たことに、胸の中でモヤモヤしていたものがスーッと消えていく思いがした。それからは、不登校の子供とともに表面的には平穏な生活が続いている。

しかし、実際の生活の中では深い深い峡谷に張られた1本の綱を、風に揺らされながら対岸に向かっておずおずと進んでいるような毎日である。

## 3.「同じ立場の家族とともに・・・」

平成4年9月、文部省から出された「不登校はどの子にもおこりうる」の見解は、私たち不登校の子供を持つ家族にとって充分納得のいくものであった。新聞・雑誌・各種書籍でも次々に「不登校」を取り上げ、その内容はすべてが納得できるものでないにしろ、とにかく「不登校」という言葉だけは市民権を得た感じを受けた。個人的ではあるが、不登校の子供を持つ家族との交流も1～2でき始め、子供達もお互いの家庭を訪問でき、

行動の範囲も少しだけであるが広がっていった。

平成5年秋、私たち不登校の子供を持つ家族に対して、「親同士が忌憚なく話せる会を創ったらどうですか」という声がかかった。それは、益田郡内の小・中・高等学校の養護教諭と益田保健所との連絡会からであった。当時、私たち2～3の家族は心は揺れながらも多少なりとも気持ちの整理ができ始めていたこともあり、親にとって苦しみを分かち合える場ができることに異論はなかった。そして、郡内に居るであろう私たちと同じ苦しみを持つ親のためにも、今、このチャンスを逃してはならないと思った。

平成5年10月18日、養護教諭の代表4名、益田保健所保健婦2名と私たち3家族で第1回準備会をもち、「親の会」設立に向けての話し合いを行った。何回か話し合いを続けるなかで、「会」のもち方なども私たち家族の意志（気持）を最大限尊重していただいた。

### 4.「親の会、いよいよ旗揚げ」

第1回「親の会」は平成5年12月9日に決定。これに先立ち12月5日に旗揚げ講演会を計画。講師に、GCR（岐阜カウンセリングルーム）の目加田信剛先生をお招きし「不登校を正しく理解するために」という演題で講演をいただき、郡内外から親や教師をはじめとして約80名の参加を得た。そして、その場をかりて「親の会」の趣旨説明と参加呼びかけを行った。

いよいよ第1回「親の会」開催である。親7名、教員1名、保健婦1名、アドバイザーとして笠原先生（現：精神保健福祉センター医師）、田屋先生（下呂温泉病院心理士）の11名の参加があった。まずまずの出発であった。

以降、毎月1回の開催で平成7年9月で22回を数えている。「会」を開催するに当たり毎回、奉仕として参加していただいている笠原先生、田屋先生、益田保健所の保健婦さんには深く感謝申し上げたい。また益田保健所に対しては、講演会を計画した時の講演料をはじめ、月々の印刷、広報、会場予約など、多大なご努力をいただき有り難く思っている。

### 5.「親の会」から「考える会」へ

「会」を開いてみると、笑いあり涙ありの話であるが、一つ一つの発言が時には重く、また、非常に貴重な内容である。親が胸の内を言葉としてこのように現すことができるのは長い時間と、苦しみの末一つの山を越えた結果だと想像できる。本来、親同士が気楽に語り合える会というのが開催趣旨ではあるが、是非とも学校の先生に聞いて欲しい、学校という場で役立たせて欲しい、そんな内容もある。そこで本会は積極的に先生方にも参加を呼びかけており、過去には参加者が親よりも先生の方が多かったこともあった。現在では不登校の状態にある子供たちも参加し、担任の先生と子供が向かい合わせで話の輪に加わる光景も見られる。

しかし、参加できる親もやや固定化しつつあり、今後、どのような方法でこの会を維持発展させるかが課題となっている。この益田の地でも不登校の子供たちが増えつつあり、私たちが味わっているこの同じ苦しみや悩みを持つ子供や親がいることを思うと、この会を細々とでも維持しなくてはと思っている。

### 6.「考える会」と「親の会」の活動

平成7年9月で22回目を重ねた「益田・不登校を考える会」は、毎月第1木曜日午後7時から約2時間の予定で萩原町福祉会館と、下呂町町内会館を交互にお借りして開催している。参加者からは我が子の様子、親としての考え方や疑問点、時には政治・経済・社会体制など幅広く意見が交わ

されたいる。参加人数は毎回10数人ではあるが、学校の先生をはじめ時には小・中学校の校長先生、町の主任児童委員の方などの参加もあった。会の運営については、「親の会」に主導権を持たせていただき、笠原先生・田屋先生・保健婦さんは常に黒子役にまわる配慮には感謝している。

親たちは、気持ちの整理がつき始めたといっても「考える会」ではなかなか言えないことがあったり、「考える会」の開催が夜であるため参加しにくい場合がある。そこで月1回、わが家を会場に「親の会」を土曜日や日曜日に開催し、ガヤガヤと賑わしく交流を深めている。また、「考える会」に出席できない人や、「考える会」の広報の意味も含めて「『親の会』通信」を毎月1回発行したり、地域的・時間的な問題もあるが他地域の同種の「会」との交流も少しではあるが始まってきた。

一方、子供たちは自分なりの生活を築き始め、子供だけの「通信」を発行したり、不定期ではあるが「子供の会」を計画したりしている。しかし、子供たちの心と体は一時も留まるものでもなく、満足するものでもない。やはり、子供たちは時間を共有できる多くの友が欲しい。共に語り、共に遊ぶ友が必要である。しかし、普段から行き来できる友達には限界があり、今後どのように友達の幅を広げるかも課題の1つといえる。そんな中、平成7年7月より下呂町福祉会館に月2回のフリースペース「花」ができた。これは、下呂町をはじめ郡内各教育委員会、精神保健福祉センター、益田保健所、下呂温泉病院のご理解とご尽力の結果であり、子供たちがこれからフリースペースをどのように活用していくか静かに見守りたいと思っている。

最後に、私たち「親の会」に各種教育研究集会への参加要請もいただきはじめ、話題や事例提供の場も与えられ、飛騨という田舎でも不登校というものを理解しようとする動きができはじめたことを嬉しく思う。

# 益田・不登校を考える会の案内

## 1. はじめに

戦後５０年、政治的にも経済的にも社会全体が大きく発展、変化をとげました。子供たちを取り巻く環境も変わり、高学歴化に伴う競争原理・効率主義・詰め込み教育等の中で、子供たちの「悲鳴」があちこちから聞こえてきます。

子供たちが自らの命までも代償にし、体を張って訴えなければならないような厳しい状況のなかで、「どの子にもおこり得る」と言われる不登校の問題も大きな関心が持たれています。

『私たちは今、何を考え、何をしなければならないのでしょうか』

## 2. 会の設立と運営

平成５年１２月、不登校の子をもつ親が、益田保健所・地区養護教諭・県立下呂温泉病院心療内科の全面的支援のもと「親の会」を設立しました。これと同時に月１回の「不登校を考える会」を発足させ、親だけの語る場というだけでなく、不登校とはどんなものかを広く一般に理解してもらうため、不登校に関心のある親や先生方にも参加を呼びかけています。

## 3. 会のもち方とめざすもの

不登校が社会問題化して久しいけれども、いまだに不登校とはどんなものであるか、その発生、対応など充分な分析、研究は進んでいません。まだまだ多くの人に誤解と偏見の目で見られているのが実情です。

子供たちは、自分が学校に行けない（行かない）ことに責めさいなまれ、社会・学校・家族の充分な理解が得られないことから、親子ともに苦しい毎日が続いています。

私達は不登校の子供とあゆむ中で、子供や親の苦しみや思いを誰かに聞いて欲しい、不登校とはどんなものか多くの人に解って欲しい、学校に行っている子も学校に行けない子も、子供らしく元気な子であって欲しい、こんなことを念願しています。

**『苦しい胸の内を語ってください。真剣に聞かせてもらいます』**

（１）『語れる方は、我が子を・我が人生を大いに語って下さい』
言い放しになるかもしれませんが、言葉にするだけで気持ちが楽になることがあります。

（２）『いろいろな人の、悩みや苦しみを聞くだけでも結構です』
人それぞれ話したくない時、言葉にならない時は誰にでもあるものです。

（３）『お互いの生き方や、考え方の批判はしません』
子供たちも親たちも、精一杯頑張ってやってきてのことですから、お互いの生き方を尊重します。

## 4. 今後の「考える会」の開催予定

**時間；午後７時から９時まで**

萩原町・福祉会館（偶数月、原則として第１木曜日）

平成７年　４月６日　６月１日　８月３日　１０月５日　１２月７日
平成８年　２月１日

下呂町・町民会館（奇数月、原則として第１木曜日）

平成７年　５月１１日　７月６日　９月７日　１１月２日
平成８年　１月１１日　３月７日

## 5. 連絡・問い合わせ先

| | |
|---|---|
| 山川（下呂町幸田） | 0576(25)4071 |
| 中川（下呂町森　） | 0576(25)2365 |
| 岡崎（萩原町上村） | 0576(52)1436 |
| 県立下呂温泉病院心療内科 | 0576(25)2820 |
| 事務局（益田保健所保健指導課） | 0576(52)3111 |

不登校を考える親の会